

町工総会ニュース vol.1

組織内情報

実作を重ねて、次世代「定番」設計へ。

町工ネットは、
「定番」設計を追い求める
歴史でした。

ていばん
※定番＝流行に左右されない、その工務店の基本的な建物。

工務店の「売り」は何なのか？ デザインか？ 性能か？ 設備か？

それらを^{ほうがん}包含した建物を、入手可能なコストで提供できる「定番」設計ではないか？

町工ネット設立の原点に戻り、求められている期待に、

応えるため、満を持して総会を開催します。

開催地 静岡県浜松市～袋井市

町の工務店ネット全国総会 in 遠州

2019年 2 / 27(水)～28(木) 【参加費】30,000円／人(税別)*
*バス・資料・会場・懇親会・宿泊・講師・講師交通費等含

ただいま
設計中!!

定番となる平屋へ!

びおハウスH

隠れたベストセラー、びおハウスHパンフの改訂と、
ブランドwebサイトの立ち上げ。

びおハウスHで成功した工務店は口をそろえて、「これに絞った」といいます。あれもできる、これもできる、びおハウスHもできる、というよりも、ルールに則り繰り返すことで、練度とコストが反比例していくのです。けれど、これは建築がつまらなくなることを意味しません。基本となるベースをつくったら、

そこから先は自由に考えればいいのです。そうしたルールを記したパンフレットは、隠れたベストセラーといえるぐらい、多くの工務店に使われてきました。今回、より使いやすくりニューアルをはかります。あわせて、びおハウスHに特化したwebサイトも製作中。

【建物見学①】 造居 + 半田雅俊

かつて、びおハウスHを「平凡^{ひんぷん}ということの非凡^{ひんぷん}」と評しました。脱・間取り、構造ルールにしたがって建てれば、実は「非凡^{ひんぷん}」な家ができるのだ、と。そこに気づいた袋井の工務店・造居とのペアで、着々と受注をあげています。びおハウスHの構造が見られる、またとないチャンス!



お隣の家に比べると、タッパが低く、チャームな外観なのに、内部を見ると開放的なひろま空間に、ヘーッと驚きの声。



半田 雅俊(はんだ まさとし)
建築家。半田雅俊設計事務所主宰。工学院大学建築学部卒業。遠藤栄創作所を経て、フランク・ロイド・ライトのタリアセンにて学ぶ。スタンダードハウス「びおハウスH」に取り組む。

bio house
H series
rule book
2020

鋭意作成中!!

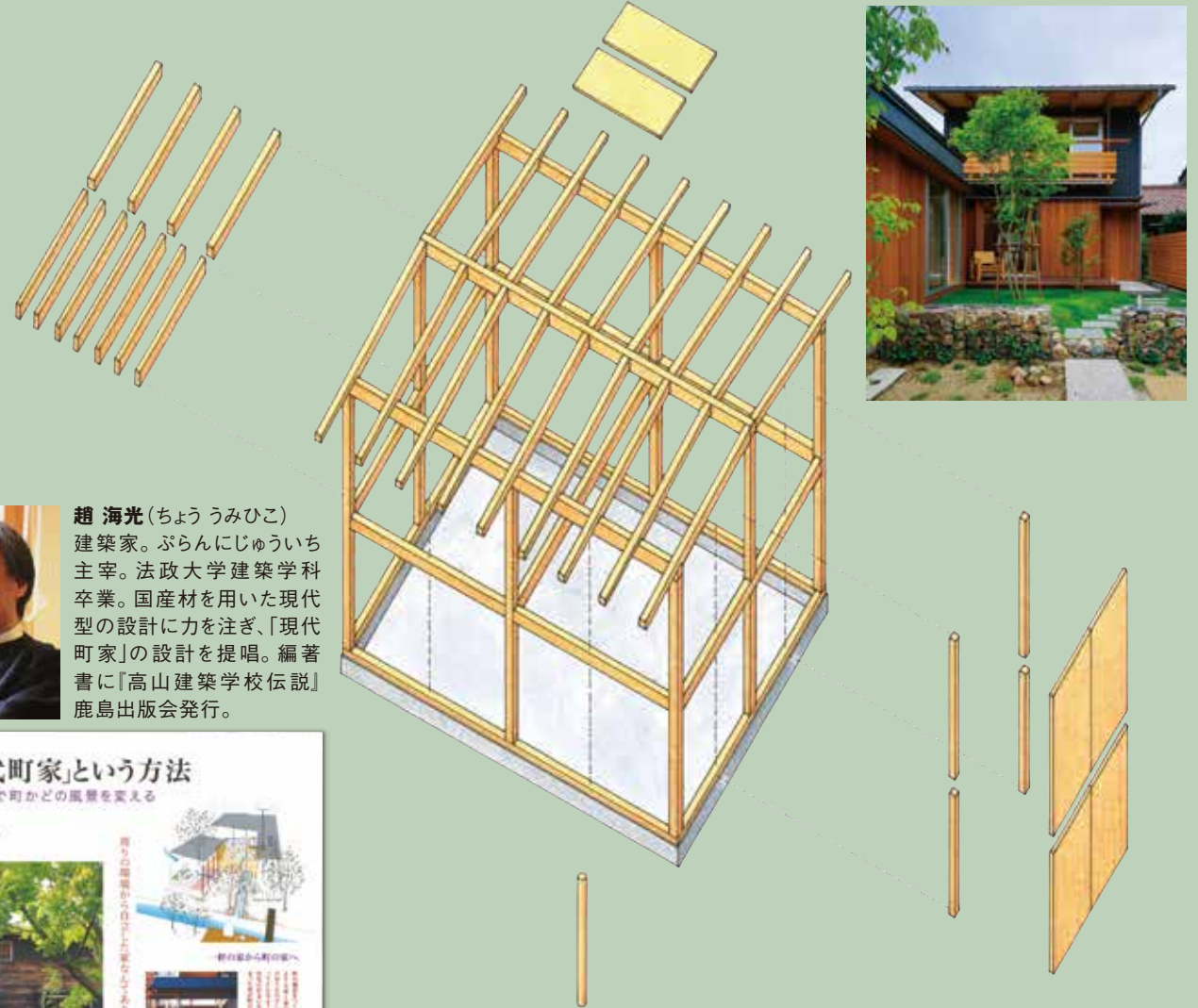


現代町家

『家づくりで町角の風景を変える
「現代町家」という方法』に学ぶ。

昨年^{じょうし}上梓された同書は、趙さんの「現代町家」を通じて、家づくりの先に町があるのだ、ということを説きました。その中に「敷地病」という言葉があります。敷地の中だけを一生懸命に考えれば考えるほど、町につながっていかない、

というわけです。よい町並みをつくることは、社会的責任であると同時に、工務店にとっての広告塔を増やすことでもあります。家づくりから町かどづくりに仕事がシフトすれば、関わる人の種類が増えて、世界が広がります。



趙 海光(ちょう うみひこ)
建築家。ぶらんにじゅういち主宰。法政大学建築学科卒業。国産材を用いた現代型の設計に力を注ぎ、「現代町家」の設計を提唱。編著書に「高山建築学校伝説」鹿島出版会発行。



「現代町家」という方法 家づくりで町かどの風景を変える

著者：趙海光(ぶらん・にじゅういち)
編集：真鍋弘(ライフフィールド研究所)
発売日：2018/07/09
出版社：建築資料研究社

サイズ：B5判
ページ数：152ページ(カラー)
定価：2,800円(税別)

プログラム

料理研究家の土井善晴さんは、「塩むすびには極意がある」といいます。「一汁一菜」は、毎日続けられる過不足ないものだと思います。それでいて、体にしみるおいしさがあります。ひるがえって住まいを見ると、変わった調味料や品数の多さ、栄養機能食品のような話ばかりになっていないでしょうか。住まいの一汁一菜をきちんとおさえ、そこから発想を広げていきましょう。

【建物見学①】入政建築 + 秋山東一 老舗工務店がブリコラージュに目覚めたワケ

入政建築は、「地域にまっすぐな仕事」を掲げる老舗工務店であると同時に、真に求められる「定番」設計にとりくみ、着々と成果をあげています。モデルハウスsukura大久保は、人を惹き付ける「磁石」のような役割と、自社とあわない人を見分ける「ふるい」のような役割を持っています。モデルハウスは元来そういうものですが、sukuraのそれは、より

いっそう思い切りが良く、見込み客を「これがいいんだ」に変えるチカラを持っています。その背景には、建築家・秋山東一の姿があります。秋山さんと出会い、ブリコラージュ（今あるものをつかって、創造的に新しいものをつくる）に目覚めたことで、いったい何が変わったのか。これからどうなるのか。秋山さんと新野社長に、ずばり聞いてみましょう。



秋山 東一（あきやま とういち）
建築家。ランドシップ主宰。東京藝術大学美術学部建築科を卒業。フォルクスハウスの設計者として知られる。近年は、そのメソッドを後進に伝える活動も行っている。

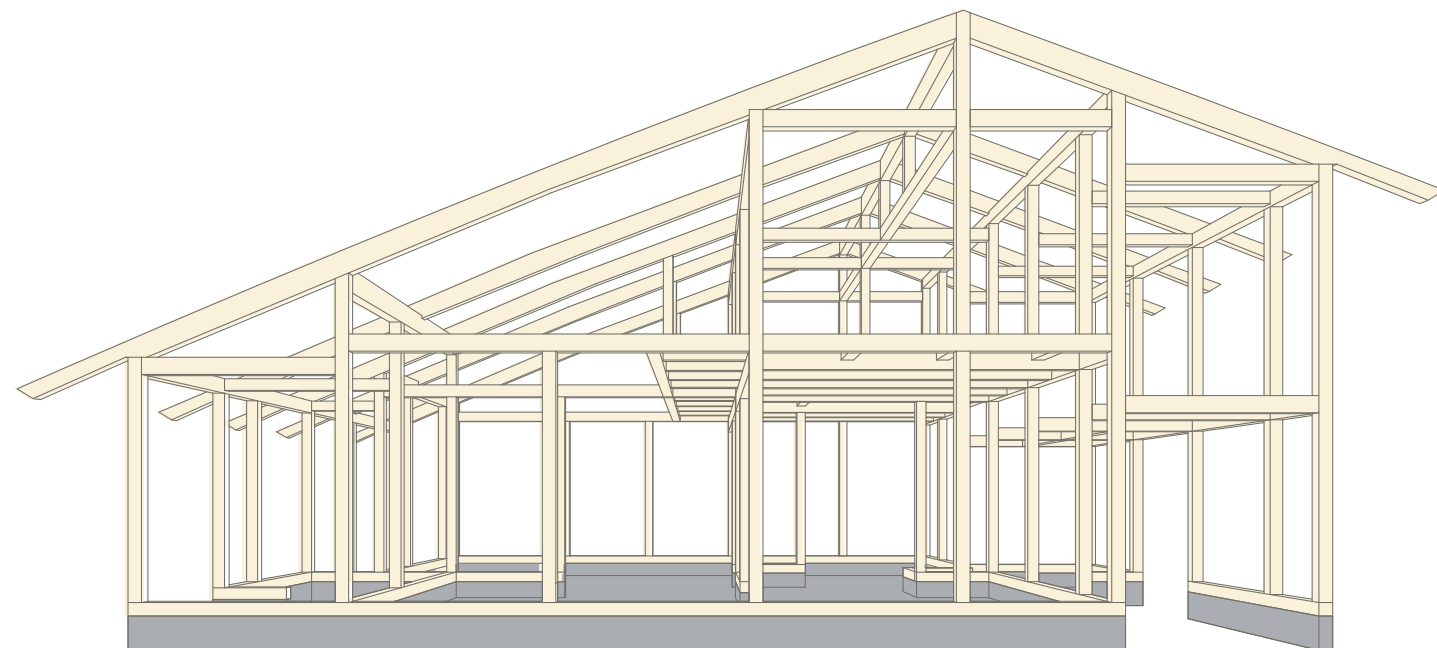


【建物見学②】水崎建築 + 村松篤 30年のペアが「変えたこと」と 「変わらないこと」

水崎建築・水崎隆司代表は、自ら大工棟梁として、現場で日々たたいています。建築家・村松篤さんと組んで仕事をするようになって、30年の歳月を重ねます。あうんの呼吸の中にも、いつも新しい挑戦があります。建築家と工務店が、永きにわたって磨いてきた結晶といえる最新作を見学します。



村松 篤 (むらまつ あつし)
建築家。村松篤設計事務所主宰。心地よい空間で長く愛着が持てる住宅を基本に据え、最近では、保育園や森林施設などの施設建築も手がける。日本建築学会東海賞など受賞。



遠江・奏庵の構造アクソメ図

私の家を造ってくれた、水崎さんと、村松さんのこと お施主の立場から 小池一三



私のは、早いもので築後25年になります。当時、頑固な棟梁のもとで一軒の仕事を任されていた水崎隆司さんと、評価の高いモデルハウス(右写真)の設計で注目されていた村松篤さんに担当いただきました。開口部だけで8ヶ月を要した仕事で、ある日、下準備されている木工場をのぞいたら、二人がチョークを手に、土間に納まり図を描いていて、ああでもないこうでもない議論していました。こりゃ手間が掛かる筈だ、と思いました。以来、名コンビで幾つもの仕事を共にされ、気がついたら二人の頭に白いものが目立つようになりました。相棒といえる相手がいるのは、大工にとって、設計者にとって実に幸せなことで、可能ならそこで培われた経験知を若い人に伝えて欲しいと思っています。二人を先生にしての大工塾を企画しなければ、と思っているところです。

**村松さんからは、いなほ工務店と取り組んでいる
新しいモデルハウスの計画もお披露目いただきます。こちらもうご期待。**



◆各地の工務店の取組から
◆びおソーラー・実践報告
◆各地で動く田園居住の取組

全国総会の続報は、近日公開!!